

おいしい水の苦小牧

苦小牧市の水道水源

苦小牧市には高丘浄水場と錦多峰浄水場の二つの浄水場があり、そこから東西に広い市内に水道水をお届けしています。高丘浄水場では勇払川と幌内川から、錦多峰浄水場では錦多峰川から取水しています。いずれの川も樽前山麓に広がる森から湧き出た清流であり、おいしい水の源となっています。これも、苦小牧の豊かな自然が育んだ賜物と言えるでしょう。

苦小牧市の安全な水道水

上下水道部では、水道法に基づいて年間計画を立て、定期的に水質検査を実施しています。検査対象は、水源となる川の水から蛇口の水までで、水道水の安全性を確保するための水質基準項目を中心に検査を行なっています。そして、全ての項目が水質基準に適合していることを確認しています。苦小牧市の水質については、ホームページで公開しています。

浄水場では、消毒を目的として必要

最小限の塩素を水道水に注入しています。この処理によって、蛇口から出る水にも微量の塩素が含まれています。

これは、水道水一リットル中に十分の一ミリグラム以上の塩素を含む状態にすることが、衛生上の観点から法律で義務付けられているためです。この水道水中に含まれる塩素を残留塩素と呼びます。この残留塩素の値を、浄水場や市内各所の配水設備にて24時間体制で監視しています。こうして残留塩素を保持することで、水道水中で細菌や微生物などが繁殖するのを防ぎ、安全性を確保しながら苦小牧のおいしい水を毎日お届けしています。

苦小牧市の水道水質

「おいしい」とご好評いただいている苦小牧の水道水ですが、そこには目に見えない多くの成分が含まれており、その大半は水源の水質に由来するものです。ここでは、水道水の味に影響を与える成分の一部をご紹介します。

①蒸発残留物

水の中に含まれる物質の総量であり、その多くはミネラル分と呼ばれている物質です。ミネラル分の量が多いと苦味、渋みなどをつけますが、

適度に含まれていると、まろやかさとコクとのバランスの取れた味になります。

②硬度

ミネラル分の中でも、量的にも比較的多く、味の面でも重要なのがカルシウムとマグネシウムです。カルシウムとマグネシウムの含有量を炭酸カルシウムの量に換算したものを硬度と言います。硬度が高すぎると、しつこい味になり、低すぎると、味の足りない味になります。この硬度成分が適度に含まれることが、おいしい水の条件の一つとなります。

③遊離炭酸

遊離炭酸とは、水中に溶けている炭酸ガス（二酸化炭素）のことです。遊離炭酸が水に含まれていると、舌への適度な刺激により、水の味が爽やかで美味しくなります。

清浄な水源に恵まれた苦小牧市の水道水は、昭和60年に旧厚生省より「水道水のおいしい都市」に選ばれています。おいしい水の水質要件を、下の表にまとめています。当市の水道水は、水質基準をクリアするだけでなく、お

いしい水であるための条件も満たしています。これからも、苦小牧のおいしい水を安心してお飲みください。

水質項目	単位	基準※1	おいしい水※2	高丘系	錦多峰系
蒸発残留物 (主にミネラル分)	mg/L	500以下	30~200	96	184
硬 度	mg/L	300以下	10~100	25	76
遊離炭酸	mg/L	20以下	3~30	3	6

※1 水質基準及び水質管理目標設定値 ※2 おいしい水の水質要件

苦小牧市の水質について（ホームページで公開しています。）
<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kurashi/jogesuido/sokatsu/suido/suishitsunitsuite.html>